

燃料部

クミアイプロパン
保安講習会開催!!

11月9日にクミアイプロパン保安講習会が磐梯熱海の清稜山倶楽部で開催されました。このクミアイプロパン保安講習会は県内各地のJA・JA株式会社からLPガス担当者を参集し、お客様にLPガスを安全にご使用いただくために、保安情勢や保安技術、保安知識の向上などを目的とした講習会です。

はじめに福島県危機管理部消防保安課・主査 秋山英雄氏より、最近のLPガス保安情勢と行政指導に関してご講演をいただきました。

午後の講習では、お客様との接点強化を目的とした訪問活動をテーマとして、アストモスエネルギー(株)アストモスアカデミー東北所長 出牛忠博氏から業務見直しのための手法について、グループワークも行いながら学習しました。

次に、JA全農燃料部 端山純氏によりLPガス顧客防衛について講演をいただきました。近年他業者によるお客様の奪い合いが行われており、最初は安値で供給しても徐々に価格を釣り上げられて、当初の価格より高いというケースも現れて問題となっています。お客様に事前にその手口をお知らせし、仕組みを分かっていたいただくために訪問活動を行うことが大事で

あることを学びました。その後、担当者同士で訪問話法のロールプレイングを行い、お互い話をしていて気がついた点について意見交換を行いました。

品目研修として(株)パロマ 飯塚所長より、普段使用している給湯器の不満を解消するガス給湯器の提案方法について講演いただきました。お客様が潜在的に我慢している部分を会話により引き出し、不満に対するご提案を行うことで、お客様からの信頼を得ることが大事であることを学びました。

今回の研修では、保安の高度化はもちろんのこと、お客様への訪問活動でLPガスの良さをいかに伝え、お客様の生活向上に役立てることができるといふ点で考えさせられる大変有意義な講習会となりました。



挨拶をする佐藤副本部長



講演する出牛所長(奥)と積極的にグループワークを行う参加者

園芸部

今年は糖度も充分!
「平成28年度福島県りんご着色系ふじ品評会」開催

JA全農福島は、11月10日(木)に福島市の「福島県農業総合センター果樹研究所」で「平成28年度福島県りんご着色系ふじ品評会」を開催しました。着色系ふじは、当県において重要品種として位置付け推進しており、農家の栽培技術の向上を目的として毎年開催しています。

今年のりんごの生育状況は、春先の干ばつや夏場の高温に加え、お盆以降の曇雨天が長く続いた事による着色不良などが心配されましたが、生産者の皆様の努力もあり11月に着色も進み、糖度も充分とのことでした。

この品評会では県内から36点が出品されました。審査員たちにより一次審査で着色や形状といった外観審査が行われ、入賞候補が選ばれました。続く

二次審査では、糖度測定その他、蜜入審査が行われ、金賞4点、銀賞4点、決定しました。



着色・形状などを審査する審査員



受賞された皆様、おめでとうございます!

週末に郡山市のJA農産物直売所「愛情館」で販売され、非常に好評で即日完売となりました。

金賞受賞者は次のとおりです。

【福島県知事賞】 村上 弘さん

(JAふくしま未来福島地区本部)

【福島市長賞】 平井都貴雄さん

(JAふくしま未来福島地区本部)

【福島県農業協同組合連合会中央会会長賞】 大槻 善博さん

(JAふくしま未来福島地区本部)

【福島県農業協同組合連合会福島県本部賞】 加藤 隆さん

(JAふくしま未来福島地区本部)

営農企画部

農業技術センター
特別栽培農産物認証事業、
申請受付始まる

特別栽培農産物は、福島県の慣行栽培に比べて「化学合成農薬の使用回数が5割以下」かつ「化学肥料の窒素成分量が5割以下」で栽培された農産物です。

福島県では、特別栽培農産物であることを認証機関が認証する制度があり、本会は認証機関の一つとして県協議会に登録されています。この制度は県内で生産される農産物に対する消費者の信頼の向上やイメージアップを図ることも目的としています。

平成28年度の本会の認証実績は、玄米・2,367ha、果実・16ha、野菜・21haなどですが、震災前は、玄米で5,500ha程度の認証実績がありました。震災により大きく減少しましたが、震災復興とともに徐々にその面積は増えてきています。

認証機関は、認証申請に基づき認証し、認証票(写真①)を交付します。認証票を貼付することにより、表示の信頼性を確保することができ、消費者はもとより流通・販売関係者に対してより一層の安心感が提供できます。

より、表示の信頼性を確保することができ、消費者はもとより流通・販売関係者に対してより一層の安心感が提供できます。

認証の申請申込みは、最寄りのJAもしくは本会農業技術センターまでお願いします。締め切りは、果実・野菜が12月末日、玄米は来年2月末日です。

特別栽培農産物に取り組み美味しさと「人と環境にやさしい農業」をアピールし、消費者に安心感、信頼を提供するために、是非、認証制度を活用してみてください。

写真①
交付される認証票特別栽培農産物の
現地検査風景▶平成28年度担い手支援研修会
県外先進地視察研修

6月から12月まで6回に渡り実施している「担い手支援研修会」は、JAのTAC(担い手支援担当者)を対象とし、担い手に訪問した際の様々な知識を幅広く習得することが目的です。その一環として県外の担い手支援の先進地視察研修を実施しており、本年は11月9・10日に宮城県、JAみやぎ仙南と農事組合法人井土生産組合、キセキ東北、クミアイ化学工業を視察しました。

JAみやぎ仙南は、JAの合併後職員数の減少に伴う生産者離れ対策として平成20年にTACを設置し、何回かの機構変更を経て平成27年からは本店に管理者を含め9名のTACが配置されています。日々の担い手訪問活動を通して生産者との関係強化を図っています。TACには「何でも良いので生産者の喜ぶこと」を実施し発表することが年間の課題になっていること

とが印象的でした。

また、キセキ東北では、土壌の状態を判別し施肥を自動調節する「可変施肥田植機」やGPSを利用した自走式のトラクター等ICT利用の最新式農機具の説明を受けました。

今回の視察で学んだ内容を参考に今後も県内担い手支援活動の充実を図っていききたいと思います。



キセキ東北でのGPS利用田植機の説明